

# 「家がいいね」 第112号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2013.9.2

## 流れ星と人生と

8月13日になったばかりの夜空を見上げてみました。ペルセウス座流星群が見られるとのことでしたが、月明りはないものの、街燈が邪魔をします。暗がりに移動して、ようやく目も慣れてきたのに、流星は現れません。首が痛くなってきた頃に、幸運にも夜空を横切りました。



あとで解説を探すと流星の元になる小天体は、0.1mmの塵のようなものから、数cmの小石のようなものまで様々な大きさがある。地球の大气に秒速数kmから数十kmという猛スピードで突入し、上層大気の子分子と衝突してプラズマ化したガスが発光し流星として観測される。大気摩擦での燃焼が見えているわけではないらしい。地上から150km程度の高さで光り始め、50kmから150km程度の高さで光り始め、50kmの高さで消滅することです。1秒もない瞬間で消えてゆく星は、こんなにも、はかないのです。星座とせずと瞬くのは恒星です。太陽よりはるかに大きいですが、今見ているその光は近い恒星でも4年前のものだそうです。大きさでも時間でも両極端が夜空で光として交差しますが、それも人知れず起っていることなんだと思うと、もったいなく思え、もう少しと流れ星を探していました。

## 外宮前 曳いて 納める 宮川連

8月25日



## 木象嵌の額の贈り物

特別神領民として、内宮にお白石を奉獻された埼玉県の方から、早速にその印象を象嵌に作ったと贈っていただきました。当院玄関で御覧下さい。



## 人を悼むこと

57号で天童荒太さんの小説「悼む人」を紹介し、「そんな事は早く忘れなさい」という世間に抗して、その人を想い続ける事が大切と書きました。



何でこんな時にと思つ瞬間に命を絶たれる人もいます。不特定の数字の中に含まれて終わる人や、亡くなった事すら振り返りもされない人もいます。小説の中では、亡くなった人を、誰彼の区別無く、誰を愛し、誰に愛され、どんなことをして人に感謝されたか、ということとを憶え続ける「悼む人」が描かれています。私も縁あって、誰彼の息を引き取る場に立ち会います。流れ星のような、その人との遣り取りや想いを憶え続ける必要があると感じます。少しずつ、自分の中に尾をひいている想いを可能な限り伝えたいと思っています。



自宅での人生を  
最期まで支援します

〒516-0805  
三重県伊勢市御園町高向 927  
電話 0596-20-8104  
ファクス 0596-20-8105  
メール [homecare@kr.tcp-ip.or.jp](mailto:homecare@kr.tcp-ip.or.jp)  
ホームページ <http://isezaitaku.com>